

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2012年4月30日】

団体名 自立援助ホーム 湘南つばさの家

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

神奈川県自立援助ネットワークの立ち上げ

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

自立援助ホームの運営維持、質の向上を図るにあたり、社会的養護に携わる関係者とのネットワーク構築は必須の課題である。神奈川県においても、児童福祉関係者よりその必要性が叫ばれ、施設退所後の支援(アフターケア)に特化したネットワークを立ち上げる必要性があった。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

児童養護施設、自立援助ホームを中心とした有志の自主勉強会「アフターケア勉強会」を立ち上げ、活動をおこなった。当ホームが事務局を担い、各施設、機関の見学、ケース検討を定期的に行い、ネットワークを深めた。また県内の児童養護施設職員研究会での施設退所後の実態調査の検討、当ホームのPRやネットワーク構築、スタッフ養成も合わせて行った。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

施設退所後の支援に必要な社会資源は児童福祉に限定されず、あらゆる分野の団体、機関との連携が必要である。連携において必要なことは面識があるなど「顔が見える関係」が効果的であり、自立援助ホームや児童養護施設のみならず、他団体との顔つなぎに大きく貢献した。また会場は様々な社会資源の見学も兼ねて、足を運んで実際に見ることに重きを置いた。この1年の活動を通して当ホームの広報、ネットワーク向上はもちろん、会の参加者において施設退所後の支援に対する意識向上とネットワーク構築に一定の成果を上げた。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

施設退所後の支援(地域生活支援)の実態は自立援助ホームにおいても未整備な領域であるが、各ホームが先駆的に行ってきた経緯もある。当ホームとしてもこの一年の活動を基盤に活動の継続と調査研究を図り、将来的には法制度化に繋がる実績を作り上げていきたい。今後の課題である。

社会的養護において、施設退所後の支援は「アフターケア」と呼ばれているが、決してアフターという二次的要素ではなく、退所後の支援こそが重要である。社会的養護における地域生活支援の充実を自立援助ホームが実践を通して指し示していきたい。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし